

第5回匝瑳市市民協働のまちづくり委員会 会議結果概要

- 開催日時 平成27年11月18日（水） 午後2時から午後4時
- 出席委員 関谷委員長、椎名（嘉）副委員長、那須委員、林委員、萩原委員、石田委員、勝又委員、加瀬委員、椎名（勤）委員、岩井委員（10名）（欠席：大木委員、伊藤委員、松田委員）
- 市出席者（事務局／企画課）太田課長、大木主幹、増形主査、小林主査補

発言者	内 容
委員	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ ※委員長あいさつ</p> <p>3. 議 事 (1) (仮称) 匝瑳市市民協働指針（素案）について ※事務局から資料1に基づき説明</p> <p>《各委員からの質問・意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この指針の素案自体はよくできていてバランスがとれていると思う。ただ、私たちは委員としてここに参加して自分たちの考えを述べたが、まだ十分練られておらず言いつばなしになっている。それを事務局がまとめた形になっていて、委員から見ると薄っぺらなものになっている。これから推進するに当たって中身を濃くするようにしてもらいたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を交えながら練っていくためには、ある程度時間をかけてより踏み込んでいかなければできない。そういった考え方そのものが協働に問われている。今回の指針づくりではこういう形にせざるを得なかった経緯、事情があるが、例えば匝瑳市の高齢者支援の在り方を考えていくときに、計画づくりや各種事業を進めていく中で、それを市民の方々の色々な意見を取り入れながら協働で取り組んでいくに当たり、そういった時間・機会を作っていけるかが問われている。個々の課題に取り組んでいくときに、そういった形で協働を進めていかなければいけない、ということをやうたうのが指針である。議論の仕方や形態の工夫などについて盛り込んだほうが良いと思うので、そのあたりも念頭に置きながら素案が作られていると思うが、更にもっと強調したほうが良いといったことがあれば御指摘いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組については、今後進めていく段階で議論されると思うので、指針としてはこれで良いと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも協働というのは手法であり、課題解決していきたいという目的を共

	<p>有された中で協働の手法が導入される。そのあたりはそれぞれの場面で議論されるが、議論の在り方を考えていかなければならない。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政と民間が協働していく中で、行政として色々な規制が働くと思う。そのあたりが改善されないと実際に効果が出ないのではないか。このあたりの考え方は、P7の協働の基本原則でいうと、「各主体の意向を尊重し、相互に信頼し合うこと」に含まれているのか。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 規制のイメージは具体的にあるのか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何かやろうとするとちょっと引っかかってくるような。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民が色々な意見を出していくといっても、提案できる範囲が限られているということか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企画課であれば、このように進めているので特にないが、他の課で具体的な話を持っていくと、「それはそうはいきません」というようになっていたりする。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> それは大事な視点である。市民の方々が色々な意見や提案があっても、そこは市民の意見は聞かなくてもいい部分だと言われればそこで止まってしまふ。よくあるのが、行政で大体お膳立てを作っておいて、部分的なところだけ市民から意見をもらって、根幹的な部分については意見が言えなかったり、あるいはある担当者とは意思疎通を図って議論を重ねていっても、担当者が変わったら全然話を聞いてくれなくなった、ということもある。このあたりを払しょくしていかなければ市民も前向きに関わりづらいのではないか。せっかく色々やろうと思っても、そうなるとう「もういいや」とやる気をなくしてしまう。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政としては、法律、条例、規則というのが大前提となっていて、その壁は破れないということは御理解いただきたい。ただ、話し合いについてはお金がないからできないということではなく、工夫次第である。市民協働を進めていくには、最初からだめというのではなく、聞く耳を持たなければならない。職員もそういった意識を変えていかなければならない。そういう意味では④の信頼関係というのは大事なのではないか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法律、条例、規則というのはしょうがないが、この他に行政指導というのがある。法的拘束力はないが聞かないと報復行為のようなものがある。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政指導は、はっきりと「こうしなさい」という部分ではないところもあり、多少対応が変わる場合もある。そのあたりは御理解いただきたい。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法律や条例、規則をどのように解釈して、どのように運用していくかがすごく大事である。行政としても考えていかなければならないし、大事なテクニックである。例えば、「駅前を観光客や市民の憩いの場にしたい」といった提案があった場合、その取組を進めていく中で、例えば道路交通法にひっかかることが出てくる。これまでの発想では、「道路交通法があるのでそういった取組はできません」で終わってしまう。そこを踏み込んで何とか賑わいと安らぎの場にしていきたい、ということで、実際にあった事例として、そ

	<p>ここにベンチを置くと交通の妨げになってしまい、道路交通法にひっかかってしまうが、道路と歩道の間をずっと2、3段くらいの段差をつけた形にすると、道路交通の妨げにはならず、でもそこに座って休んだり飲食したりできる。これがまさに法解釈の工夫であり、専門用語でいうと政策法務という。まずはやりたい政策があつて、その政策を実現させるためにネックになった部分についてどう乗り越えることができるか知恵を出し合う。景観でも国の法律では大規模開発が規制できない部分を市独自の条例を作って景観を守るというのも政策法務である。これからの協働のまちづくりにははるごく大事な視点である。縛りがあつてもできる限りの可能性を探っていくという姿勢も大事であることを原則の中に盛り込んでもいいかと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・東総駅伝というのがあり、千葉県では一番歴史が古い駅伝であるが、コースがほとんど人のいないところを走る。もっと町の中を走ってもっと大勢の声援があつたほうがやりがいもあるが、ネックになるのが警察である。過疎化していくまちをなんとか活性化していくためにはこういったことが必要だと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった事例は多い。法律を破ることはできないが、その時に行政と市民、警察が同じテーブルに乗って落とすところを探っていくことが大事。かなり幅があるにもかかわらず、もうだめだという風にしてしまっているケースがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・訴える側ももっと粘り強くやっていかなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りなんかも、何かあつては困るということで結構規制がかけられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大変すばらしい素案で感激した。ここまで具体的な事例をあげてくるとは思っていなかったのでプランとしてはすばらしい。我々も「ひとづくり」、「しくみづくり」、「体制づくり」がないと協働は成り立たないといってきたが、それがかなり盛り込まれている。特に行政の推進体制にあるように、「部署間の連携を強化し、地域課題等について共有を図って」や「地区担当制度の導入」とあり、これをやってくれたらすごい。よく「人を変えたかったら自分が変われ」という。「行政は変わったなあ」となって住民の対応の仕方がかわる。住民に「変われ」といっても変わらない。システムと合わせて、身をもって変わったと思わせるイメージチェンジができればすばらしい。あとは、これをいつからやるのか。なるべく早く具体的に進めてほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政との関係という部分は大事である。「具体的な取組例」という書き方になっており、現段階でこれを全部やります、というふうにはなかなか書けないと思うが、こういったことを検討しながら、可能な部分は具現化していくこととなるかと思う。今後、本格的な協働についての計画づくりが始まれば、いつの段階でこういった体制を導入していくのかを短期・中期・長期といった形で描いていくということもありうる。私も素案の中で気になっている点がいくつかある。P10の協働の位置づけにおいて、この指針を実行可能なも

	<p>のにしていくためには、総合計画にどう位置付けていくかということが決定的に大事になってくる。行政が行っていることの最上位計画は総合計画であり、その中で協働指針がどのように位置づけられるのか、ということ伺いたい。それから、今も地方創生で「総合戦略」を策定していると思う。総合戦略は5年間で匝瑳市の地方創生の取組を加速させていく計画なので、その中でも協働を明確に位置づけていかないといけない。もう一つは、一般論として、どの自治体も財政状況が厳しく、職員の数を減らしており、そうすると職員一人当たりの業務量が増えてくる。そういう状況の中で他自治体などでよく見られるのは、「頼むからうちの課には協働の話は持ってこないでくれ」という傾向がある。これは怠慢もあるが、物理的に対応できない、という雰囲気が見えてくる。このあたりをどう解きほぐしていくかということ相当考えていかないと、いくら指針を作っても協働の専門部署を作ってもうまくいかない。傾向として、協働の専門部署が庁内で浮いてしまうということがみられる。確かに協働というのは時間がかかるし人手もかかるが、それは短期的な視点であり、中・長期的には行政の負担を減らしていくことである。職員がそういう風と考えられるかどうかは大事。協働をどういったタイムスパンで捉えられるか。このあたりも位置づけとして諮っておいていただきたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画については、現在「後期基本計画」を策定中であり、基本目標の一つにもうたわれており、そこに市民協働指針及び条例に基づいて推進していく取組を記載している。 ・地方創生でも現在、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定中である。ようやく人口の目標について大方方向性が定まった段階であり、今後は目標の実現に向かってどのような施策を打っていくかということはこれから検討していくものである。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画でも総合戦略でも、一つの柱として掲げられるだけでは弱い。横串のように、どこかの部署がやるのではなく、どの部署もやらなければいけない、というような位置づけにさせていただけたらと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の定義について、すばらしいと思った。私は委員会に参加させていただいているのでこれまでの過程を知っており、内容も理解できるが、これを地域の人が見たときに、すばらしいことができるのではないかと期待している。これを地域でそうやって推進していくかわかるようになるといい。
委員長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民がこの指針を共有していくことが大事。 ・地域住民もそうだが、職員も素案に則って向上していかなければならない。実際に実行に向けて進められるような計画が必要。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政にとっては負担と感じられることもあるかと思うが、少しでも事業がよりよい成果につながっていくようにしていくことがまさに政策を練るとい

委員	うこと。それを誘うような指針になりうるかどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回の指針については、ワークショップの意見を踏まえてよく整理されていると思う。その中で文書表現について、P4 匝瑳市の特性 (1) 自然環境において、「自然環境が豊かでありながら、比較的自然災害が少ないことも特徴のひとつです」とあるが、裏を返せば自然環境が豊かなところは災害が多いというようにも取れる。そういう意味で整理したのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そうではないが、このままだとそう捉えらえるので、自然環境が豊かということで区切るなど表現を整理したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 同じく表現について、P1 に「地域がスカスカになり」とある。「地域が空洞化し」といった表現のほうがよくないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり。空洞化といった表現のほうがよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> その下に「学校が統廃合されてしまいます」とあるが、すでに統廃合はされてしまっている。あと、P5 (6) 地域活動について、「土手を刈ったり」とあるが、土手だけでなく市道の路肩などもやっている。このあたりも表現してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> P1 (2) の「私たちのまち・暮らしはこうなる」の部分で「高齢者を支えるための施設や人材が不足し、きめ細かな支援ができなくなってしまう」、「地域の主体的な担い手がどんどんいなくなってしまう」とあるが、この結果、どのようなことが起こるかイメージされているか。職員はどれだけ危機感をもっているか。その危機感を共有できるかが大切である。私のイメージでは孤独死や認知症高齢者の行方不明など、匝瑳市ではすでに起こっており、この傾向はますます進むと思っている。そのようなことを具体的にイメージできた上での文章であればいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> この文章をはずしてしまったらどうか。親切に書き過ぎである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> そこまでは言っていない。立派な文章でありわかりやすいが、それは意識して書いたほうがいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域で身寄りのない人たちへの見守りなどは平和地区ではできているが、できていない地域などで、「私たちの地区でもやりたい」というように地域から盛り上がってきたときに、「やろうじゃないか」というようにもっていかればいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> これまで出てきた意見として、リーダーをどのように育成していくのか、あるいは行政側がどのような対応を考えているのか、この2つの大きな方向性が指針に取り込まれている。しかし、行政側の窓口、対応についてまだ信頼されていないから色々細かな部分で意見が出てくる。先ほど委員長からの事例を伺っていると、やろうと思っていたことが門前払いとまではいかないまでも時間がかかってしまうということもあるようだ。その意味でも今回委員から出された意見を真剣に受け止めていただき、練られた案が次回提示されることを期待する。本当は若い委員からの意見も聞きたかった。

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・1章の部分は色々書き様がある一方で、全てを書ききれものでもない。ここに記載した意図は、今後人口減少や高齢化がどういう風になり、どのような現実をもたらすのかイメージを膨らませていただくために載せたのではないか。私たちのまち・暮らしはこうなる、とすると断定的なので、例示的な書き方にするなど工夫するといいいのではないか。あと、行政の部分については御指摘のとおりであり、入り口の部分でなかなか噛み合わない。協働の悩ましさというのは立場が違うこと。行政と市民では持っている情報量も目線も違う。立ち位置が違うから課題認識の違いも物事の進め方もどんだんずれていってしまうというのはよくあるパターン。共通の土俵に乗れるかどうか大事な視点である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・P1の「私たちのまち・暮らしはこうなる」の部分は断定的な表現になっているので、例示的な柔らかい表現になるように調整したい。もう一つの行政の推進体制にかかる部分については、これ以上踏み込んだ表現は難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こう書いてほしいと要求したわけではない。意見を踏まえてまとまったものが出てくることを期待する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この後、庁内課長級職員で構成する検討委員会で素案を検討し、その中で膨らませる部分があれば膨らませるが、あくまで今回の素案をベースにするという考え方である。また、指針であるのでどこまで具体的にするかというのは難しい部分である。このあたりで御了解いただきたい。指針の中でも推進を図るための協議会を作っていきますという位置付けているので、次のステップで改めて御議論いただけたらと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズについて、字余り的である。「創意工夫で 生み出す 支え合いのまちづくり」ではまずいのか。言葉がすっと出てくるほうがいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・字句の検討についても今日この場でやるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえた案を作成し、次回検討いただく機会はある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・もし現時点で気づいていることがあれば。例えば、1の表題と目次では表現が違っている。しっかりと合わせておいたほうがいい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、今日議論いただいたものを反映して庁内検討委員会で検討した上でパブリックコメントにかけられる。パブコメ前にぜひ盛り込んでいったほうがいいのかといった意見があれば発言いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P1「家の後継者がいなくなってしまう」となっている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった文言の整理は後ほどしっかりとやっていただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P9の協働の分野の例で「ボランティアに支えられた介護予防・高齢者支援」とあるが、障害者・児支援も入れて欲しい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ入れていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントはどのくらいの内容を出すのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・P16までは出す。資料編については検討する。委員名簿までは出さない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P8～9の協働の事例について、指針ではここまで書くのか。書くのであれば

事務局	<p>とてもわかりづらい。また、役割分担が決められていて、こういう主体にこうことをしなさいと言われていているようである。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・役割というわけではない。イメージを浮かべてもらえるように記載しており、他の事例でもこのような書き方をしているところがある。もっと言うと他の例では「共催」など手法について例示しているところもある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的にはこのような表現で、多様な主体となっているので、その主体とはこのような主体ですよ、と例示するケースが多いが、こうしなければいけないと決まっているわけではない。むしろこういった形にして書くとういうことをやれと上から言われているように受け止められてしまうこともあるので、書き方を工夫してもいい。一つのやり方として、例えば地域の防犯活動や高齢者の見守りなどについて、誰がどんなことができるのか、といったことを一例として載せて、色々な人がこんな形で関わり得るんだということを示し、ヒントにしてみようということもある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働を進める主体、分野、形態が分けられているとわかりづらい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かにこれらがどう結びつくかイメージがつかないというのは御指摘のとおり。こういった書き方も一つの書き方であるし、分野の例のところでも色々な課題があるわけで、その課題に対してどういった主体がどういった場面でこういった手法で関わってくるのかを例示するとわかりやすい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・主体というのは役所言葉か。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・役所ではよく使う。学者もよく使う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・主体という言葉自体がよくわからない。パブリックコメントでは配慮したほうがいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の定義について、行政が必ず関わってくるというふうに読み取っていいのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の考え方としては、地域相互で連携する。その場合、行政が入る場合もあるし、入らない場合もある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定義の中には「多様な主体と行政が」とある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な指摘である。これまでの議論では多様な主体の中に行政もあるという考え方なので、整合性は図る必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおり。市民同士の連携も考えられるので、「と行政」の部分を削除する。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の定義について、これでよいか。色々な要素を入れると長くなってしまふ。短すぎても抽象すぎてわからなくなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・骨子としては問題ない。言い回しについてはまた考えたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・この後、役所内の会議とパブコメを経て、もう一度議論いただく機会があるので、それまでの間に検討いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働について説明しなくてもわかるようになるには相当時間がかかると思う。今の段階ではイメージ的にこういうものですよということ育てていくし

委員長	<ul style="list-style-type: none"> • かない。最初から説明なしにわかるようにはいかない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 御指摘の通りで相当時間がかかる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • みなさんが普段やっていることですよ、ということ。 • そういうところから解きほぐしていき、それをもっと生かしていくためにはこんなやり方があるとか、こういう連携をすればもっとこんなことができるとか、色々確かめながら進めていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 何かやりたいと思っている人にはすごくいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 手法の話になるが、人材の育成は非常に大事だが、人材の発掘や協働事業の発掘など、そういうものを行政側から提案していただき、踊らされるような形になるといい。こっちから「こういうことやりたい」というとすごく時間がかかる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 協働というと市民からの提案というイメージがあるが、行政からの提案というのもある。しかし、内部で市民と一緒にやれるテーマや事業を募集してもほとんどの課から上がってこないというのが実情である。行政として、もう少し市民と一緒にこういうことをやっていきたいんだ、ということをもっと市民に投げかけていけば、それを受けた市民としてはここで協力してやろうとなりやすい。先ほどいった負担の問題や予算の問題もあるし、市民に押し付けていると取られたくないということもあるかもしれない。しかし、これからは行政でできなくなることもたくさん出てくるので、積極的に提案したり、問題提起していく姿勢を持つことは大事なことである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • ここ最近、行政は色々なものに手を出し過ぎたのではないかな。サービス過剰な部分もなきにしもあらずである。周りに行政に何をしてもらいたいかな聞くと、「税金を安くして欲しい」といったことしか出てこない。あと大体は自分たちでできるという。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 過剰サービスというのは御指摘のとおりであり、いくら税金を集めても足りないのが社会保障である。これからどういう社会設計になっていくのかは未知数であるが、多くの税金を集めて手厚いサービスをしていくのか、税金をなるべく集めないようにして自助、共助を膨らませていくのか、このあたりのバランスを含めた社会設計は、国としてもまだ揺らいでいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 先ほど総合計画の中にどのように落としていくかという話があったが、非常に重要な柱になるように思うのだが、そうでもないのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 総合計画と総合戦略がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 総合計画は分野網羅的に施策の方向性を示すものであり、総合戦略は地方創生の動きの中で人口減少対策として人口ビジョンに掲げる目標人口の達成を目指すものである。総合計画も総合戦略も施策を進める上で協働という手法はどうしても必要な部分であり、何らかの形で取り込みながらうたっていくことになる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 協働は手法なので、どの分野でも関わってくるものであり、一つの分野にす

<p>委員 事務局 委員 事務局 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員長</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員長</p>	<p>ると浮いてしまう。横串で刺すような形で、全ての分野で協働の手法を考えていくことを徹底するという位置づけにすると、この指針が生きてくるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現段階で、総合計画には委員長が言ったような形で位置づけられているのか。 ・協働は位置づけられているが、全分野にという形ではない。 ・現在パブコメを実施しているので、ホームページで確認できるのでは。 ・パブコメ自体は終わったが、素案を見ることはできる。 ・協働というのは今始まったものではなく、これまでも実施されてきてはいるが、その重要性が高まってきているという中で、市も本腰を入れて取り組んでいこうとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生に関連しての補助金がらみもあるのか。 ・総合戦略については今年度中の策定が求められているが、補助金はすでに出されており、その関係もあって計画期間は今年度から始まっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・補助金についていうと、自治体が協働のまちづくりを進めることについては国も後押しをしているが、どの省庁にしても手上げ方式に変わってきている。自治体単位で行政と市民団体が連携する形で企画提案してください、という形になっていて、熱心な自治体はどんどん提案している。そうでない自治体は全然提案していない。提案してもすぐに通るとは限らないが、そういう姿勢というのもこれから問われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・補助金が出ないにしても、市として協働の取組はなければならないものである。 ・市民と行政が一緒になって何かをやるうとしたとき、まずは目標が共有できないといけない。どうすれば目標を実現できるかを一緒になって考えていくことが協働で一番大切なことだと思う。 ・そういう方向性が開かれる指針になるといい。 <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回の日程について報告。 <p>4. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	---